

会 議 録

会議名	令和2年度 第1回瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和2年7月30日(木) 14:00~15:50
開催場所	丸亀市役所別館5階第1会議室
出席者	(出席委員) 原真志(会長)、高濱和則(副会長)、佐藤友光子、村井花子、角野幸治、高木和代、高島弘武、大井一栄、嶋田悟、高田学、平田正敷、三谷洋勝、増田美樹 (欠席委員) 草薙めぐみ、保科太志、元木ひより (敬称略)
議 題	・定住自立圏構想の概要について ・令和元年度事業実施状況及び令和2年度事業実施予定について
傍聴者	0人
事務局	(中心市) 丸亀市市長公室長 横田拓也 丸亀市秘書政策課 課長 窪田徹也、副課長 谷本智子、担当長 宇野大志郎、主任 大川智 (関係市町) 善通寺市政策課 課長補佐 小河啓二 琴平町企画防災課 主任 並木幸司 多度津町政策観光課 課長補佐 土井真誠 まんのう町企画政策課 課長 松浦正吾、課長補佐 溝淵浩一
発言者	議事の概要及び発言の要旨
窪田課長	ただ今から令和2年度第1回瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会いたします。 (梶市長より委嘱状交付) (梶市長より挨拶、公務により市長退席) <委員自己紹介> <事務局職員紹介> <関係市町職員紹介>
窪田課長	会長の選任についてですが、定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱の第5条において、委員の互選により定めると規定されていますが、いかがいたしましょうか。
高木委員	事務局の方でご意見はありますか。

窪田課長	<p>事務局といたしましては、地域経済の活性化や地域づくりについて豊富な知識をお持ちで香川大学大学院地域マネジメント研究科に所属されています原委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(委員より拍手、会長は原委員に決定、原会長挨拶)</p>
窪田課長	<p>続きまして、副会長の選任ですが、要綱の第5条に会長が指名すると規定されていますので、原会長よりご指名をお願いします。</p>
原会長	<p>地域経済において大きく貢献され、経験も豊富である高濱委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(委員より拍手、副会長は高濱委員に決定、高濱副会長挨拶)</p>
窪田課長	<p>ここからの議事進行につきましては、要綱第6条の規定によりまして、原会長をお願いします。</p>
原会長	<p>それでは議事を進めさせていただきます。なお本日の会議ですが、委員総数16名中13名が出席していますので、要綱の規定により会議は有効に成立しております。</p> <p>本日の議題は、(1) 定住自立圏構想の概要について、(2) 令和元年度事業実施状況及び令和2年度事業実施予定についてです。</p> <p>まず、(1) 定住自立圏構想の概要について、事務局より説明をお願いします。</p>
宇野	<p>(定住自立圏構想の概要について説明)</p>
原会長	<p>ただ今の説明に関して、ご意見やご質問等がございましたらお願いします。特にご意見がないようであれば、具体的な取組状況は次の議事にございますので、そちらに移りたいと思います。それでは、事務局より説明をお願いします。</p>
宇野	<p>(政策分野「生活機能の強化」について説明)</p>
佐藤委員	<p>インターンシップは、参加状況が活発であるように見受けられません。また、地元の大学生を逃がさない取組も大切だと思います。</p>
窪田課長	<p>参加事業所数、学生ともに減ったように見えますが、申込数は前年までと同程度であり、企業と学生の日程調整が合わず、そうした結果となったものです。また、この事業は首都圏、関西圏の学生だけでなく地元の学生も参加が可能となっておりますので、地元大学への協力依頼に努めたいと考えています。</p>
高濱副会長	<p>2018年から2019年あたりは、人手不足で地方の企業は大変でしたが、学生にとつ</p>

	ては選択肢が多い状況であったため、そうした社会的な変化も要因の一つだと思いません。インターンシップ自体は、企業側も大事にしたい取組です。
佐藤委員	コロナウイルスが収まると、再び人手不足の状況に戻るでしょうか。
高濱副会長	ここ2年は難しいのではないのでしょうか。現在もそれなりに雇用は継続していますが、総体的には減ると思われます。
佐藤委員	人手不足で学生側が厳しい状況でないから参加する学生が減っているというのであれば、インターンシップのあり方から検討する必要があると思います。
原会長	この行政のサービスを利用するかどうかは別問題で、他の手段によってインターンシップに参加していて就職に繋がっているというのであれば、それはそれで構わないですし、ここに上がっている数字だけでは判断できないと思います。香川県全体におけるインターンシップの取組のなかで、この圏域で目指すターゲットが明確になると、果たすべき役割や比重が変わると思うので、そこも含めて評価ができれば良いと思います。今後の就職活動がどうなるかは、まだまだ分からない部分があります。
高濱副会長	雇用状況が悪くなればなるほどインターンシップは重要になります。
三谷委員	ウッドスタート事業とはどのようなものですか。
宇野	生まれたこどもに県産木材を使ったおもちゃを贈るもので、自然素材に親しんでもらう木育と言われる観点からの取組になります。
三谷委員	ごみ処理について、施設のオーバーホール、また、万一使えなくなった場合に、他の施設に代わりに処理してもらえるような体制になっていますか。災害時のように、2市3町だけで処理しきれない場合、それ以外の市町との連携も必要だと思います。
宇野	丸亀市、多度津町はクリントピア丸亀で、残りの市町は仲善クリーンセンターでごみ処理の共同運営を行っており、施設の改修は中讃広域行政事務組合の方で計画的に行っています。施設の改修等で利用できない場合は、中讃広域の中で協議して対応を検討することになります。
平田委員	消防防災体制について圏域内の連携はありますか。まんのう町には河川が3本あり、大規模な災害の場合を想定して、2市3町で総合的な防災訓練をする必要があると思います。
宇野	各市町ごとに防災訓練を行っているのが現状だと思います。河川の大規模災害は、複数の市町にまたがることも想定されますので検討する必要があると思います。

横田公室長	国土交通省の主管により、四国四県が持ち回りで大河川での防災訓練を実施しています。今年はこちら土器川での開催が予定されていましたが、コロナの関係で来年に延期となりました。来年には、この圏域の枠を超えた、より広域の防災訓練が行われる予定です。
平田委員	行政だけでなく、一般市民も参加して体験しておく必要があると思います。
原会長	<p>2年前の愛媛県の被害の際も、国や自治体の対応が遅れたことが指摘されておりますので、シミュレーションをして問題点を確認しておくことが必要です。国、県と連携して対応、準備をしておいていただければと思います。</p> <p>それから、私の方から別の質問ですが、今年度のインターンシップはコロナの影響により中止するとのことですが、他の取組で同じような状況はありますか。例えば、外国語版の観光パンフレットなどは、外国人の観光客は見込めないと思いますが、いかがでしょうか。</p>
宇野	外国語版のパンフレットは検討を進めていきます。インターンシップは、受け入れ先の企業側でも難しい部分があるようです。
原会長	外国語版のパンフレットなどは、コロナが収まる状況を見据えて準備しておくことは大切です。紙媒体だけでなく、ネット上での展開も同時進行で実施されていますか。
宇野	例えば、昨年度作成したサイクリングロードのマップは、パンフレットとともに、WEBでもダウンロードできるようにしており、現在の観光戦略としては、基本的に両方対応するようにしています。
原会長	全世界的に観光は滞っていると思いますが、ネットサーフィンでどこへ行こうか考えているこの時期に、WEBでの情報をしっかりと整えておくことが必要だと思えます。他に影響があるものはありますか。
宇野	イベント関係は想定されるかと思います。
原会長	コロナ関連で、圏域で対応すべき新たな課題などは相互に検討されていますか。
窪田課長	圏域での取組を考えるなかで、検討すべき課題だと認識しています。協議についてはこれからです。
原会長	他にいかがでしょうか。なければ、政策分野「結びつきやネットワークの強化」、「圏域マネジメント能力の強化」、また、圏域人口指標の状況について、事務局より説明をお願いします。

宇野	(資料に基づき説明)
三谷委員	<p>公共交通について、飯山町を通るコミュニティバスは1日7便で、ルートも複雑です。高松へ行く場合、飯山町からは栗熊駅か坂出駅に繋がるのが便利ですが、丸亀駅か宇多津駅しか接続しておらず、非常に不便です。高齢化や免許返納などの動きを考えますと、2市3町の枠を超えて、県主体で幅広く検討する必要があると思います。</p> <p>また、善通寺のコミュニティバスは、善通寺駅や琴平駅に停車しないと聞いております。</p>
佐藤委員	<p>善通寺駅付近までは行きますが、JRのダイヤと連動していませんので、改善できると思います。</p>
宇野	<p>丸亀のコミュニティバスは、北にJR、南に琴電がそれぞれ東西に延びており、基本的には南北の移動をカバーするという考え方のもとで、できる限りニーズに応えられるよう見直しを行っています。広域での視点も大事ですし、また、公共交通はコミュニティバスだけではカバーできないので、複数の手段によって対応していくことも大切です。丸亀市では、高齢者移動支援モデル事業として、コミュニティ単位で運営するダイヤモンド型の移動支援に取り組んでいるところです。</p>
小河課長補佐	<p>県との協議については、昨年度から県主導により、JRや学識経験者も含めた公共交通の担当者の会が設けられています。</p> <p>善通寺のコミュニティバスについては、改善に向けて検討していきます。</p>
三谷委員	<p>ダイヤモンド型とは、具体的にどのような手法で、どこで取り組まれていますか。</p>
宇野	<p>市内の3コミュニティで実施されています。コミュニティが事務局となって、地域内でドライバーを手配し、地域内の住民からの要望に応じて運行する仕組みです。</p>
増田委員	<p>車だけでは限界があるなかで、例えば、路面電車など根本的に発想を変える考えはありませんか。先の未来では、空中での移動手段もできるかもしれません。</p>
宇野	<p>路面電車も公共交通の一つではありますが、これからの時代、情報通信技術が発達していくなかで、他の自治体ではスマホを利用したダイヤモンドタクシーのような取組も進められています。</p>
三谷委員	<p>人口に関する指標の説明がありましたが、圏域で人口減少の問題に対応していくことは非常に大事だと思います。</p>
原会長	<p>人口減少とコロナ対応に関しては、来年度からこの会議でも検討する第3次の共生</p>

	<p>ビジョンを策定するうえでの、根本的な問題だと思います。私どもの大学院も次の年度の学生確保を懸念していますが、逆に東京や京阪神から問い合わせが増えていきます。このコロナの状況で就職活動がままならない学生にとっては、大学院に進んで2年後に就職活動をしたい、また、大学院を選ぶ際にも首都圏・関西圏を選びにくいなかで、香川で暮らしながら学ぶというのも一つの選択肢ということで、移住の問い合わせも増えているようです。圏域ではこのような情報を掴んでいますか。</p>
窪田課長	<p>人口移動の特徴としては、自然減を社会増で補うかたちで、丸亀市、中讃圏域は微減に留まっている状況です。コロナの状況が今後どのように人口移動に影響していくかについては、掌握できておりません。</p>
原会長	<p>with コロナの状況で、この圏域も含めた香川県は、日本の中で言うと相対的に住む場所、働く場所として注目されている傾向があります。コロナの今だからこそ、住むまちとして選んでもらえるよう情報発信を充実させることは、役に立つ情報として受け止められる可能性があるのも、そうした方たちに刺さるような環境整備も望まれていると思います。</p>
佐藤委員	<p>東京の若者で地方に住みたいと思う方も増えているようですので、インターンシップもチャンスがあると思います。</p>
村井委員	<p>「文化芸術・スポーツ等を通じた交流の促進」では、取組が全てスポーツに関わるものばかりですが、文化芸術に関わる取組はありますか。</p>
窪田課長	<p>第1次の共生ビジョンでは、瀬戸内国際芸術祭を活用した取組も行っていました。</p>
三谷委員	<p>猪熊美術館をはじめ、世界的なバレリーナや丸亀高校演劇部の活躍など、丸亀市には文化的な資源が多いと思います。</p>
原会長	<p>ほかにご意見等もないようでございますので、以上とさせていただきます。 本日、予定しておりました議事は終了いたしました。</p> <p>以上をもちまして、本日の懇談会を終了いたします。ご審議、お疲れ様でした。 (会議終了)</p>